

第 4 次太宰府市障がい者プラン
関係団体ヒアリング
結果報告書
第 2 回障害者施策推進協議会資料

平成 28 年 10 月 18 日

目 次

I 関係団体ヒアリングの概要	1
1. 関係団体ヒアリングの目的	2
2. 関係団体ヒアリングの方法	2
II 関係団体ヒアリング結果の概要	3
1. 権利を守っていくために課題となっていること	4
2. 生活を支援していくために課題となっていること	7
3. 社会参加の機会充実のために課題となっていること	15

I 関係団体ヒアリングの概要

1. 関係団体ヒアリングの目的

関係団体ヒアリングは、第4次太宰府市障がい者プランの策定作業の基礎資料とするため、地域生活での困りごとや、障がいのある人たちの権利擁護や生活支援、社会参加に関する問題や課題、また、そのために求められる取り組みなどについて、当事者の人たちからご意見をうかがうことを目的に実施しました。

2. 関係団体ヒアリングの方法

調査対象 : 太宰府市身体障害者福祉協会、NPO 法人太宰府障害者団体協議会、太宰府要約筆記の会「ちくし」、精神障害者と家族の集い「コスモスの会」、協働わーくす エ・コラボ、太宰府手話の会、NPO 法人つくしクローバー会、太宰府インクルーシブ教育を考える会、太宰府てんとう虫の会、NPO 法人おさき坊、筑紫地域精神障害者家族会「五筑会」、太宰府市声のボランティアグループ

調査期間 : 平成 28 年 7 月～9 月

調査方法 : 記述式調査票の配布・回収、もしくは団体ごとのグループインタビュー

II 関係団体ヒアリング結果の概要

1. 権利を守っていくために課題となっていること

- ◆子どものときから障がいのある人たちも世の中にいて、いっしょにうまく生活していくにはお互いどうしたらいいかを考えていけたらいいと思う。
 - 今、障がいのある人の雇用がすごく広がってきていて、社会参加の機会も増えているので、子どものときからそういう人たちも世の中にいて、いっしょにうまく生活していくにはお互いどうしたらいいかを考えていけたらいいと思う。
 - 私の地域に目の見えないご夫婦が住んであって、その方々が回覧板は点字ではこないのを飛ばしていいと言われたそうで、言われるままに通り越して回していたそうだ。しかし、その隣に新しい方が入ってこられて、どうにか回覧板のなかの情報を伝えようと口頭で伝えてくれるようになったそうだが、やはり気持ちの持ち方で変わると思った。
-
- ◆今年から障害者差別解消法が始まっているので、いろいろな面でこれからやっていかなければいけないことはいっぱいあると思う。
 - 今年から障害者差別解消法が始まっているので、いろいろな面でこれからやっていかなければいけないことはいっぱいあると思う。例えば、田舎に行くと「障害者は人様に迷惑をかけるから出るな」というような風潮が、現に福岡県でもいっぱいある。
 - 今、障がいのある人に対する法律は整備されてきたが、中身を伴っているのだろうかと思う。合理的配慮ということもあるが、その前に障がいのある人も平等であり差別をしないでほしい。差別解消法ができたが、すぐには浸透しないと思うので、障害者計画を策定するにあたって、いかにみんなに知らせて理解してもらって、実行するかがものすごく大事になると思う。
 - 公共の機関の方々にはまず教育をしてもらいたい。我々障がいのある人自身の活動も必要だが、やはり国や県など行政が、絵に描いた餅ではなく、もう少し実際の差別解消に向けた現実的な法律に切り替えていく政策が、もっと必要になると思う。
-
- ◆これが健常者だったとしても同じことを言うのか、障がいがあるがゆえに言われているのではないかと思ってしまう。今でも、障がい児だから苦情を言ってもいいというような態度を取られることは、まだまだあるのが現実である。
 - 今、市民プールで障がい児の水泳サークルをやっているが、市民プールの指定管理者の方を通して、ウォーキングをしている方から、水しぶきがかかるからあの子たちにバタフライをさせないでという苦情がきた。そういうときに、これが健常者だったとしても同じことを言うのか、障がいがあるがゆえに言われているのではないかと思ってしまう。今でも、障がい児だから苦情を言ってもいいというような態度を取られることは、まだまだあるのが現実である。指定管理者の方からは謝罪を受けたので私たちの気持ちは済んでいるが、世の中はそういう目で見ているということである。
 - バタフライの件は、指定管理者に抗議をしてもいいと思う。完全に差別だと思うが、経営側が苦情を言ってきた人にそれは筋が違うから受けられないとなぜ言わなかったのかと思う。苦情を受けてもそれを当事者になぜ話したのかと思う。

◆発達障がいに対する（正しい）認知がまだ少ない。自閉症の人にとっては静かな環境というのがバリアフリーなのに、そういった人たちに対するバリアフリーについてはあまり気づかいがされていないと思う。

- 発達障がいに対する（正しい）認知がまだ少ない。
- バリアフリーというのは、身体に障がいがある人にとってはスロープであったり、手すりであったりするので気づかいはあると思う。しかし、自閉症の人にとっては静かな環境というのがバリアフリーなのに、そういった人たちに対するバリアフリーについてはあまり気づかいがされていないと思う。
- サークルのなかに、ひとり言語がたどたどしくてうまく感情が伝えられない子がいるのだが、夏場になるとパニックを起こすので、これは想像だが多分なかで相当からかわれているのだろうと思う。自閉症の子にとっては、子どもたちの騒ぐ声はとてもきついのので、それをすごく我慢して着替えて出てきたときに親の顔を見て、パニックで大きな声を出してしまった。それを見た周りの方が自分の子どもをかばわれた。気持ちとしてはわかるがショックな光景だった。その子がパニックを起こさないで着替えられる状況が守られていたり、大きな声を出しても暴れないという障がいへの理解がすすんでいけばと思う。
- プールの更衣室のことは象徴的な例だと思うが、おそらくご本人だってパニックを起こしたくないし、周りも起こされたくないの、パニックを起こすような嫌な気分にならない環境をつくってあげるのがお互いにとって一番いいと思う。
- 私たちも、障がいがあるからといって何でも許してもらえとも思っていないし、小さい子どもさんが怖がるのもわかる。仕方のない部分もあるが、できればお互い嫌な思いをしないための環境が必要だ。

◆3障がいのうち、精神については特にまだ偏見が残っているようである。

- 3障がいのうち、精神については特にまだ偏見が残っているようである。特に就職に関しては職場の理解が得られず孤立していき、かえって病状が悪化することもあるようだ。障がいについて、正しい理解をしてもらうため、事業者向けの説明会等の機会を増やしてほしい。職場の理解があれば就業でき、かつ長続きする人が増すと考えられる。
- 3障がいのなかでも、さらに精神障がい者への差別、無理解は特別です。病気のことをオープンにして働くことはまず不可能です。特に当市においては絶対といっていいほどできません。
- 精神保健福祉士の資格を取るために専門学校に行こうとしたが、それも入学後、精神障がいがあることがわかると辞めてくれと言われた。そういうことはまだたくさん残っている。特に太宰府市は考え方が古いと思う。
- 今ほど、まだ発達障がいに対して理解がない時代だったので、わかりにくい障がいということではじめにもあったし、嫌な思い出はたくさんあるので、そういう意味では今は理解がすすんでよくなっていると思う。

- ◆いくつになっても障がい者ということで白い目で見られるところはあるので、ゼロにはならなくても、ずっと絶え間なく広報をし続けることが必要だと思う。障がい者に対する理解が深まるよう行政はあらゆる機会をとらえて広報してほしい。
 - いくつになっても障がい者ということで白い目で見られるところはあるので、ゼロにはならなくても、ずっと絶え間なく広報をし続けることが必要だと思う。それも、理解しきょうでは理解はしてもらえないので、こういう人にはこういう対応をしましょうとか、落ち着くまで静かに見守ってほしいとか、そういう具体的なことをできれば小さい子どものときから教えていただきたい。先生方にも勉強をしていただき、実際にどのような声かけをすればいいかを見せてあげてほしい。
 - 障がい者に対する理解が深まるよう行政はあらゆる機会をとらえて広報してほしい。近隣市町では、文化会館、公民館などでイベントを行うとき、一区画を障がい者のために提供しています。もう半ば常識になっています。そのおかげで一般の理解がすすむのです。
 - 皆さんが知らないだけで本当は太宰府市のなかにも何千人という人たちが精神の病になっているということを、市がもっと周知するようなことを考えてほしい。
 - 一般市民に理解してもらおう広報、周知活動が大切です。精神障害者イコール異常者と思いきこんでいる市民がどれだけ多いことか。
-
- ◆障がいへの理解を深めていけるような場所づくりをしてほしいので、そのために行政が私たちとの橋渡しをしてくださったらと思う。そうすると、地域の方ともコミュニケーションが取りやすくなると思う。
 - 合理的配慮と言う前に、障がいへの理解を深めていけるような場所づくりをしてほしいので、そのために行政が私たちとの橋渡しをしてくださったらと思う。そうすると、地域の方ともコミュニケーションが取りやすくなると思う。
 - 人権に対する思いや、皆さんとのコミュニケーションについてわかってほしいということで、太宰府市としては人権講座をやっているが、地域のなかでの些細な困りごとや、やってほしい、やってほしくないということについては、まずは地域の公民館などでやって、それから少しずつ広げていったほうが説得力があると思う。
-
- ◆市役所までの敷居が高いということはよく聞く。支援を担当する方が、サービスを受給する障がい者の方の目線になってなく、上から目線のことが多々認められます。
 - 私たちは、とりあえず窓口に来ていただいたら、何をしたいかなど話してもらって聞くようにしようと言っているが、市役所までの敷居が高いということはよく聞く。だけど、いろいろな相談事業所をつくったとしても、やっぱり本人が本当に困ったときにくるのは市役所だと思う。
 - 支援を担当する方が、サービスを受給する障がい者の方の目線になってなく、上から目線のことが多々認められます。誰のための福祉サービスか、再考することが求められている気がします。

2. 生活を支援していくために課題となっていること

- ◆一番心配なのは、親が亡くなって子どもたちが残されたとき、どうやって生活していくのかということだ。できたら、グループホームなど住む場所があって、年金の範囲内で生活できるものをつくってもらいたいというのが一番の要望である。
- 一番心配なのは、親が亡くなって子どもたちが残されたとき、どうやって生活していくのかということだ。できたら、グループホームなど住む場所があって、年金の範囲内で生活できるものをつくってもらいたいというのが一番の要望である。
- 子どもが重度の知的障がいだが、今のところ両親とも元気なので楽しんで生活している。しかし、自分たちが年を取ってからのことだけは心配である。
- 今や年金生活者ですが、親亡き後の子の幸せを願うばかりです。障がいを抱える人々のための制度の充実を望みます。

- ◆現実そのときに自分もどのような状態になっているかわからないので、最終的には生活保護で行政が何とか手を貸してくれると信じていきたいので、その土台づくりをぜひともお願いしたいと思う。
- 親も今の状態では子どもに残してあげたいと思っているが、現実そのときに自分もどのような状態になっているかわからないので、最終的には生活保護で行政が何とか手を貸してくれると信じていきたいので、その土台づくりをぜひともお願いしたいと思う。そうすると大分安心できるようになる。
- 親は子どものために少しでもお金を残してあげたいという気持ちと、自分も少しは遊びたいという気持ちと両方あると思う。だから、貯金がなくなったら家を売り、そのお金もなくなったら最終的には生活保護を受けるといような気持ちでいいのではと思う。

- ◆将来、グループホームで生活するようになったときのことを考えるが、今もらっている障害年金が6万4千円くらいで、生活するには家賃、光熱費を入れると10万円くらい、やはり親が面倒をみていかないといけないけど、親も年金だけの暮らしで、親の生活も厳しい。
- 将来、グループホームで生活するようになったときのことを考えるが、きっと就職はできないと思うので、今もらっている障害年金が6万4千円くらいで、生活するには家賃、光熱費を入れると10万円くらい、それに病気になったりしたらと考えると、やはり親が面倒をみていかなければいけない。しかし親も年金暮らしというご家庭も多く、月々4~5万を親が持ち出ししないと生活はできないが、それができない家庭もあると思うので、これでいいのだろうかと思った。
- 今一番心配なのは、経済的な自立ができるかということだ。このまま就職をしないと障害年金はもらえるが、就労支援B型の収入は1万円あるかないかなので、年金と合わせても7万円ちょっとくらいにしかならない。グループホームに払うお金が8万円くらいで、日用品やお小遣いとなるとやはり足りないので、今でも仕送りは欠かせない。私は今65歳だが、まだ現職なので苦にはならずどうにかやってきたが、年齢的にもうそろそろ仕事も

辞めなければならない。私が年金だけになると、仕送りをいつまで続けられるだろうとか、私自身あと何年生きられるだろうなど心配になってくる。自分で働けるなら働き、働けないなら働けないことを前提とした裏打ちがないと親も本人も安心できないし、自分のことで誰かが犠牲になっていたり、誰かが嫌だと思っているような人生では楽しくないと思う。

- 施設に預けようとする子どもは年金だけでは足りないし、これからもっと少なくなっていくので生活はしていけないと思う。親としてはできるだけ子どもに残さないといけなと思うが、残すことができる人と、年金だけしかなく本当に自分たちが生活していくのも大変な人がいる。自分より長く生きるであろう子どものために、月々5万円があと何十年分必要なのか、自分がどれだけ生きていられるか、そういうことを思ったら不安になる。

- ◆ 本人はひとり暮らしがしたいようだが、お父さんがネックになっている。社会資源として太宰府にはグループホームが少ないので、私としてもそんなに遠くにはやりたくないという気持ちがあるため、お父さんを説き伏せ切らないのだと思う。
- 本人はひとり暮らしがしたいようだが、お父さんがネックになっている。社会資源として太宰府にはグループホームが少ないので、私としてもそんなに遠くにはやりたくないという気持ちがあるため、お父さんを説き伏せ切らないのだと思う。
- 筑後の特別支援学校では寄宿舍に入っていたのだが、本人はその寄宿舍がすごく楽しかったようで、今でもその時代の人たちといっしょにグループホームに入りたいようである。
- 親が願うグループホームの形と、本人たちが入りたいグループホームのギャップがすごくあるそうだ。本人たちは街中の便利のいいところに住みたいが、親は街中から離れて夜遊びに行けないようなところに行ってほしいと思っているそうだ。実際、自立性が高い人ほど友だちが入り浸って、毎晩宴会をしているような状態になっているという例も聞いた。グループホームもいろいろあって、個室性が高いところは埋まっているようだ。
- 私は、障害者就業・生活支援センターで仕事が決まったときに、グループホームをすすめられたので、仕事が落ち着いたら体験からさせたいと思っている。
- 今はまだ本人が一般就労を希望しているが、仕事には嫌がらずに行っているものの仕事はきついので、働き方を変えるタイミングでひとり暮らしを考えるのもいいかなと思っている。今の仕事は、自閉症のサガでそんなにがんばらなくていいと言っても、ひとり1,000個くらいつくればいいところを、2,000個以上つくっているようである。集中力は40歳をすぎると落ちるそうなので、その前にはもう少し緩やかな働き方ができるところに属して、そこと連携を取りながらグループホームに入るといいのではと思っている。
- きょうだい児支援のことと絡めて言えば、障がいのあるお子さんがグループホームに入られることは、きょうだい児にとって一番の安心になるのではないだろうか。いずれはどこかにお任せしないといけないので、より安心できる場所をお願いできればというのが親の願いである。
- グループホーム、ケアホームの整備推進。積極的な事業所誘致と支援。

- ◆私たちはこのような活動をしているので、知れた情報がたくさんあって、やっていなかったらどうしていただろうと思う。だから、情報を知らない方はお困りだろうと思う。相談できる人がいなければ自分ちで全部抱えて大変だろうと思う。
- 自分たちはエ・コラボをやっていたから知れた情報がたくさんあって、やっていなかったらどうしていただろうと思う。だから、情報を知らない方はお困りだろうと思う。相談できる人がいなければ自分ちで全部抱えて大変だろうと思う。
- 私たちはこのような活動をしているので、いろいろな情報が入ってくるのだが、高校を卒業した途端に本当にブツンと情報が切れてしまうので、障害者就業・生活支援センターのような場所があることさえ知らずに取り残されている方が本当に多い。
- 県の予算なのでどうにもならないと思うが、もう少し障害者就業・生活支援センターが充実したらいいなという思いはある。市としては、そういうところがあるということをもっと広報して下さったらなと思う。
- 行政としても障がいのある方を調べるというのは難しいことだと思うが、そこを一步超えた上で、こういう障がいの方にはこのような支援ができますよ、太宰府市にはこのようなサークルがありますよと、民生委員が行政と個人のつなぎ役をするように市にもそのつなぎの部分で情報発信をしていただくことで、障がいのある方は受け入れやすいと思う。個人情報もあるのですべてさらけ出してほしいのではないが、私たちは向こう三軒両隣よりも少し広い近所になると誰が何に困っているか、どのような支援ができるか全くわからない。
- つくしピアが有効利用できていない。存在が周知されていない。支援員を増員し体制を強化する。
- 障がいのある人の支援をする体制が市民に周知されていないし、周知する機会が少ないと思います。
- 大野城市と筑紫野市では説明会があるというお話があったが、それは聴覚に障がいがある人に対して、派遣制度や市の制度などいろいろな情報を提供する意味で行っている。太宰府市は残念ながらまだ1度もやったことがない。
- ◆ひきこもっている人の情報がどの程度関係機関に伝わっているのか、また、どのような支援の仕方があるかがよく見えてこない。相談窓口が当事者や家族にとって敷居が高くなっているように感じる。
- ひきこもっている人の情報がどの程度関係機関に伝わっているのか、また、どのような支援の仕方があるかがよく見えてこない。家庭訪問等の相談窓口が当事者や家族にとって敷居が高くなっているように感じる。
- 私は民生委員もしておりいろいろな情報が入ってくるが、障がいのある人に対する情報はゼロなので全体像が全くわからない。太宰府市内で障がいを持っている方がどのくらいいて、どういう状況で生活してあるのか、どのような障がいがあるのかなど全然見えてこない。
- 市役所の方にどう伝えるかというところの敷居があると思う。ちょっと相談するという場がなく、終わってしまう。民生委員はつなぎ役なので、市役所にひとりでは行きづらいという方がいればいっしょに行ったりもするが、ひとり暮らしの高齢者は把握していても、障がいのある方に対する見守りは全くと言っていいほどゼロである。

- うちでは自立支援法もない時代の卒業だったので、当時、久留米の雇用支援センターしか中継地点はなかったのだが、おかげで就職もできたし、最初の何年かは定期的にきてくださった。実際、今は縁が切れているが、いざとなれば相談できるという場所が1個でも残っているというのは、ありがたいと思う。
 - 一番効果があるのはやはり訪問だと思う。長崎にはたくさんの島々があるが、そこにも行政の方に通訳の方が同行して、一軒一軒訪問して、ひきこもりの方も外に出て社会参加できるようにという取り組みがあると聞いたことがある。顔を合わせる事が大事だと思う。
- ◆24時間いつでも連絡ができアドバイスがもらえたり、助けてもらえたりできるものがあるかということ、それは全くない状態である。そんな状況で帰しても、誰かが犠牲になってしまうように思うが、それを大っぴらに言えない風潮があると思う。
- 地域に帰しましょうとか、長い入院はとか、家庭で自分の住みやすいところと言われるのは確かにわかるし、そうしたいとは思いますが、実際帰ってきて何かあったときに、24時間いつでも連絡ができアドバイスがもらえたり、助けてもらえたりできるものがあるかということ、それは全くない状態である。そんな状況で帰しても、誰かが犠牲になってしまうように思うが、それを大っぴらに言えない風潮があると思う。
 - 病院に入院していて外泊しているときであれば、どうにか病院に連れて行けばいいのでまだいいのだが、退院したあとに何かあったらと思うと、かなり不安を抱えながらの退院になる。だけど、本人が喜んでいると言われると、冷たい親と思われるのも嫌だし退院させるが、退院して楽しく過ごしましょうねという気持ちにはなれない。
 - 本人が退院したいと言うと、病院の先生は本人が言うなら退院していいと言われる。家族からすると帰ってきてどう扱っていいかわからないし、24時間目が離せないと思っても見張ってはいられないし、今の状態では家でみる事ができる自信がないと思っても、親として愛情があるならなど素直に言えない感じがある。
 - 精神障がいというのは、普段から私は病気のよという感じではなく、いつもは本当に普通なのだが、あるとき何かで急にスイッチが入って怒鳴り出す。手がつけられず初めは警察にきていただいたことが2~3回あったが、先日は病院に連絡を入れたら日曜日だったので警察に電話してくれと言われ、警察に電話をすると病院が外出の許可を出したのだから警察はそんなものにかかわってはおられないという態度だった。警察からここに電話をなさいと電話番号を聞いたので電話をして説明すると、ああそれだったら警察に言ってくださいとたらい回しにされた。電話番号を教えてもらったところは、何にも行動は起こされなかった。
 - 何かあったらいつでも病院に連絡してくださいと言われるが、それが24時間ではなく病院の開いている時間帯ということになる。
- ◆今一番現実的に思うのは、子どもに何かあったときに24時間体制で、すぐ連絡をして助けを呼べたり、支援を求められたりできる場所が確立できていないので、そこをきちんとしてほしいということである。
- 今一番現実的に思うのは、子どもに何かあったときに24時間体制で、すぐ連絡をして助

けを呼べたり、支援を求められたりできる場所が確立できていないので、そこをきちんとしてほしいということである。

- 精神障がいの方は、夜間に調子が悪くなる人も多いので、24 時間（病気以外でも）対応できる相談窓口や家庭訪問等もできる人材が少ないので迅速な対応ができず、家族も疲れてしまう。24 時間対応できる機関（施設等）がほしい。
- 精神障がいのある人は不安があるので、高齢者のケアと同じで 24 時間見守ってもらえれば、安心して生活できると思う。
- 国もだろうが、退院させて家族が家でみるべきという考えが一番にあるので、病院の医師や保健所の人から呼び出されて退院を勧められたりすると気持ちが落ち着かなくなる。だけど、現実的には退院させて2晩全然寝られず私がダウンしてしまったので、本当に肩身が狭い思いをしながら病院に入院させてもらっている状態である。24 時間の受け入れ体制がきちんとあれば、何も親だっらずっと病院に入れておきたくないというのが本音である。
- 24 時間体制で相談を聞く必要があるのかと言われるような状態では、何もできないと思う。行政として 24 時間体制で連絡が受けられるよう、アンテナを立てようという気持ちから始めてほしい。
- 最初、職員が交替で、24 時間体制で電話を受けていたが、大変な仕事なのにお給料が本当に安いので人が続かず取りやめになった。その男性職員が、自分は結婚できない、給料も安いし、夜勤もあるし、日曜日も出ないといけなし、それを理解してくれて共働きしてくれるような女性なんていないと言っていた。

◆ 3 障がいの方がいっしょにやることで、精神の方もほかの方と話す機会ができるのでそういう仕事が大事だと思う。

- 3 障がいの方がいっしょにやることで、精神の方もほかの方と話す機会ができるのでそういう仕事が大事だと思う。知的の方と精神の方は、市役所の地下売店に入れるようになったので、そこで野菜を運んだり、レジを売ったり研修や訓練ができて、本人たちも楽しいと言っている。そういう社会参加ができる機会をもっと増やしたい。
- ボランティアの立場から見ても、日中活動ができる場所は太宰府市には少ないと思う。自活、自立ができる施設が少ないと思う。親が亡くなったあとが心配である。何かあったときに相談に行ける場所も少なすぎる。
- 障がいのある人が利用する就労施設についてだが、ほかの市に比べると太宰府市は就労施設がすごく少ないと感じている。
- 私たちは仕事を 3 障がいですべてしているので、なるべくいっしょに作業ができるような仕事を継続的にほしいのだが、仕事がない時期がある。
- 作業所、販売者さえあれば、障がい者は心が満たされ、友人と話し合えるし、社会参加は期せず実現していきます。彼らに収入を得ることの喜びを味合わせてください。役所、文化会館、各公民館など公の場所に障がい者がいて生産品を売ることは、やってくる市民の理解につながるし、一般市民と言葉を交わすことは社会参加となります。

- ◆私の職場は理解があって、今は私の声にも相手が慣れてくれたのでコミュニケーションが取れている。
- 私の職場は理解があって、今は私の声にも相手が慣れてくれたのでコミュニケーションが取れている。
- 私は今、太宰府市の職場に通っており、職場内には障がいのある人が30名ほどいるが、ろうは私ひとりである。センター長の話などで大切なことは、隣の人がポイントを押さえて書いてくれている。仕事中はマスクを外すことは禁じられているので、口話が見えないため、簡単な身振りなどでコミュニケーションを取らなければいけない。コミュニケーションにずれが生じて大変なこともある。
- ◆障害者就業・生活支援センターについては、うちの子の転職のときに本当にお世話になってよさがわかっているだけに、職員が少ないことを残念に思う。本当はもう少し支援員さんがいて、もう少し濃密に相談ができればと思う。
- 障害者就業・生活支援センターについては、うちの子の転職のときに本当にお世話になってよさがわかっているだけに、職員が少ないことを残念に思う。筑紫地区に1か所しかなく人員配置は4人くらいで、面談の日時を合わせるのが大変だった。前の職場を辞めてから、次の職場に就くまで、面談をしながら本人にどんな仕事がしたいかや、どんな条件がいいのかを聞いてまとめてくださって、毎日の生活リズムが壊れないように手づくりの表もつくってくださり、県の合同面接会にもいっしょに行ってくれて、そこで受けた2社のうちひとつが今のところだった。
- 今は障害者就業・生活支援センターの支援員さんがついてくれているので、グループホームのことも相談すればできないことはないと思える。しかし、やはり支援員さんがすごくお忙しいので、本当はもう少し支援員さんがいて、もう少し濃密に相談ができればと思う。
- 今の会社と障害者就業・生活支援センターはいい関係があるようで、職場からの疑問をワンクッション、センターに置いて、私のほうに伝えてもらえるので、お互いにとって何でも言いやすくすごくいい感じである。お母さんの不安はないか、おうちでの様子はどうかと一つひとつきいてくださる。子どもがパニックになって帰ってきたことがあって、職場で何かあったのかなと気になったときも、間に障害者就業・生活支援センターが入ってくれるので言いやすく、それが本当にありがたいので、そういうところをもっと充実してほしいと感じている。
- ハローワークと障害者就業・生活支援センターもうまく連携が取れていて、仕事を辞めて不安な気持ちがあったけど、障害者就業・生活支援センターに登録したことでハローワークにも就職にもつながって、今の会社では3か月に1回面談をするということでやっているの、今も障害者就業・生活支援センターとつながっていて、ありがたいと親も安心して行かされている。ありがたい制度だと思う。

- ◆障害者雇用率を満たすために入れるのであれば、はっきり言って知的か身体の方にさせていただきたい、精神の方は調子が悪くなって突然仕事にこななくなることがあるから、仕事として約束できない部分があって怖さがあるということだった。
- これは企業の方がはっきり言われたのだが、障害者雇用率を満たすために入れるのであれば、はっきり言って知的か身体の方にさせていただきたい、精神の方は調子が悪くなって突然仕事にこななくなることがあるから、仕事として約束できない部分があって怖さがあるということだった。
- 作業所であっても、3障がいの作業所であれば身体の方が責任者になっているので、私たちに精神障がいの人は全然仕事の予定があてにならないし、扱いに困る、ノルマがあってもできないし、出勤時間も守れないので迷惑だとはっきり言ってきた。
- 知的、身体の方は何をフォローすればいいのかを社員にも言えるが、精神の方はプライドもあるし調子がいいときと悪いときで違うので、何と声かけをしたらいいかわからない、これが本音で、ほかの企業もいっしょだと思うとのことだった。
- すぐ休んで困るということであれば、同じ仕事に3人くらい雇ってもらって、給料は3分の1ずつでいいので体調がいい人が出勤するというようなことでいいのではということだ。本人たちも働いているという実感があるだろうし、企業としても雇用率が上がると思う。
- 病気でない人から見たら、何とまあ気難しく、扱いにくい人だとか、怠けている、人を馬鹿にしているとか、五体満足なら肉体労働をすればいいとか言われるが、肉体労働も薬の関係で疲れやすいし、要領が悪いところもあるので難しい。こっちサイドも、仕事をする上でどう理解してもらうのか、きちんとできるようにするにはどうしたらいいかを考えなければいけないと思う。そういう意味で、3人でシェアするのはいいと思う。
- ◆精神の方も、ていねいに就労支援を受けることができれば、支援する側にもていねいにできる時間と余裕があれば、就労ができるのではないだろうか。病気のせいだけでなく、やはり支援が足りないのではという気がする。
- 知的障がいの方の就職率がこの10年で伸びた理由は、特別支援学校高等部の先生方がかなり動かれて就職先を探して、そういう支援が行き届いたからだと思う。これが例えば統合失調症の場合は、成人に近い年齢で発症することが多いので、学校教育での積み重ねがあって就職にいたるのではないので、就職が難しいのだと思う。そう考えると、もしかしたら精神の方も、丁寧に就労支援を受けることができれば、支援する側にも丁寧にできる時間と余裕があれば、就労ができるのではないだろうか。病気のせいだけでなく、やはり支援が足りないのではという気がする。
- 遅れてしまうのも、別に遅れてもいいやという横着ではなく、本人はやろうと思ってもそうになってしまい、そしてそこを責められるとまた余計に落ち込んでしまう。遅れても、今日は調子が悪いのに出てこられたんだなと言ってくれたら全然違うと思う。
- 軽い人は、3か月働いたらひと月休んで精神の状態を見て、また仕事に出るなどそういうことを企業が理解してくれたら続くと思うがなかなか現実には難しい。
- 症状が比較的軽い人は、仕事によっては続いている人もいる。障害年金とお給料をもらってどうにか暮らしていけるというのが、本当にうらやましい理想である。

- 企業によってはジョブコーチがくるのは監視されているようで困ると言われるところもある。しかし、ジョブコーチは本人の権利ばかりを主張するためのものではなく、企業にとっても支援になるようにという制度である。
- ◆ 体育館のお掃除を委託する清掃業者は、障がいのある人たちを多く雇っているところにするなど、障がいのある人が働ける場を増やす工夫をぜひ太宰府市でやっていただきたいと思う。
- 法定雇用率が決まっていると思うが、どの企業で何人雇っているというような情報はないので、就労場所を増やすための対策を福祉課でやってほしい。例えば、今体育館ができていますが、体育館のお掃除を委託する清掃業者は、障がいのある人たちを多く雇っているところにするなど、障がいのある人が働ける場を増やす工夫をぜひ太宰府市でやっていただきたいと思う。
 - 就労継続 B 型などに重点を置くよりも、一般企業での就労環境が増えることを願っている。
 - 障がい者（特に知的と精神）の働く場が少ない。
- ◆ 太宰府市にも活断層があり、地震がいつ起きるかわからない。どなたがどこにおられるかもわからないので、太宰府市は地震対策に積極的に取り組んでいく必要があると思う。
- 太宰府市にも活断層があり、地震がいつ起きるかわからないのだが、どなたがどこにおられるかもわからないので、太宰府市は地震対策に積極的に取り組んでいく必要があると思う。
 - 昨日この会場で、災害への備えや実際の行動などについて話をする場が持たれたが、例えば身体に障がいのある方やひとり暮らしの方を、周りの人がどう連携して避難場所まで連れて行くのかなどのお話し合いの指示は全くなかった。そのような手助けを必要とする方が、どのくらいおられるのかなどを市が把握されているのか疑問に思った。
 - スマホを持っている人の場合は、情報は防災メールまもるくん、手話の会のライングループ、メールで回す仕組みの3つがあるが、スマホを持っていない方やラインやメールに慣れていない方は困っていると思う。漢字にルビがないとわからない方もいるので、わかりやすい言葉やイラストなどがついていれば理解できるのではないかな。
 - 大雨の時などは、外の防災無線や広報車の声は聞こえないので、子どもの時のように聞こえる聞こえないに関係なく、電話で全家庭に連絡があったらいいと思う。
 - 災害時に一番困ることは放送による情報伝達で、電光掲示板が地域に配置できる所はいいが、ない場合は赤い光は本当に危険、黄色の光は避難できる準備など、光でお知らせできるようなものがスピーカーとセットであれば、誰でも見てわかるのでいいのではないかなと思う。私たちも、災害が起こった時に外で放送があっても窓越しではわからないので、光を見て情報が伝わるようなものがあれば、光を見てインターネットで調べるということにもつながると思った。
- ◆ 今は子育てボランティアや高齢者ボランティアなどが多く、障がいのある人のためにボランティアをしてくれる人が非常に少ない。
- 今は子育てボランティアや高齢者ボランティアなどが多く、障がいのある人のためにボランティアをしてくれる人が非常に少ない。太宰府市のボランティアセンターに行ってお願

いしても、社協に行ってお願ひしてもよこしてくれない。

- 我々が今一番困っているのは、支援者が足りないことである。ボランティアの方には交通費だけでやってもらっている。ところが、人が足りないので、ここに通っている人たちの十分なお世話ができていない。もう少し福祉に関するボランティアの意識を高める方策が必要だと思う。
- ボランティアについてだが、高齢者ばかりで若い人たちが入ってこないで、これからどうなっていくのかという気がしている。

3. 社会参加の機会充実のために課題となっていること

- ◆生活する上での一番の困りごとは、交通手段である。今は、まほろば号の運賃が無料になるのは1級だけだが、2級3級の方のほうが社会参加をしているのでバスを利用する機会が多い。
- 今は、まほろば号の運賃が無料になるのは1級だけだが、2級3級の方のほうが社会参加をしているのでバスを利用する機会が多い。西鉄バスの減免措置も精神障がいについてはないので、そういう面でまほろば号に関しては特に率先して精神障がいの2級3級の方まで無料にもらえるような配慮をお願いしたい。
- 生活する上での一番の困りごとは、交通手段である。息子は免許を持っており事故を起こしたこともなく支障は全くないのだが、精神の場合は車の運転が制限されている。
- 精神障がいは子どもの頃からなるわけではないので、精神障がいの方は免許を持っている方が多い。しかし、病院に行くと自粛しなさいとはっきり言われるので、免許を持っていても運転する人は非常に少ない。そういう面で、一般の方と違うということを汲んでほしい。
- 私も、利用者の方がここにくる時にまほろば号でこられたらいいなと思っていた。わずか100円200円でも回数を重ねると大変なので、せめてここにくる時だけでも市が援助してくれたらと思う。
- 私はコミュニティバスを利用しているが、ここのサークルがいつも21時までなので、最終バスに乗るために慌てて帰らなければならない。もう少し遅くまで運行があればと思う。
- ◆誰にでも話ができない状況で、やっと我々のところにたどりついて話ができると、ほとんどの方が思いを涙ながらに話される。我々のところにきて安心されるのだと思う。そういうのが、太宰府にも必要だと思う。
- 家族会というのは白木原にあるが、子どもが病気になって親はどうしていいかわからず、誰にでも話ができない状況で、やっと我々のところにたどりついて話ができると、ほとんどの方が思いを涙ながらに話される。我々のところにきて安心されるのだと思う。そういうのが、太宰府にも必要だと思う。
- どうしても家だけにいると、子どもたちもストレスがたまるので、外に出て作業をしたり、ほかの人と話をしたりできる場が大事だと思う。だからこの会は、ここで作業をしながらストレスを発散してほしいという思いで活動している。

- 家族の方も精神的に大変なので、ここにすれば自由に話ができて気持ちが楽になるという場所をつくりたい。
 - 私は、どういう人に出会えるかで、子どもの将来像は変わってくると思う。私にとって、親の会で知りあった少し上の先輩お母さんの存在は、本当に励みになっている。自分の子どもが将来どうなるかというのはとても不安だったが、先輩お母さんから働けるよ！納税者になれるよ！と言われて、希望を持つことができた。そして、将来働けるという目標を持てたことで、そっちに向かって、成長するためにはここは我慢させようとか、待てるよう訓練しようとかがんばれた。反対に、子どもが好きなようにさせて、パニックにならないように、この子に合わせて育てないといかんよ、と言われていたらそうになっていたかもしれない。
 - 予約などはいらないので、とにかくきてもらえれば私たちも便利な情報や連絡など伝えることができる。出前講座で消防署の人にきていただき、実際声を出さなくても電話ができる体験をやったりもしている。3人ではやはりさみしいので、もっと増えて仲間がいることを自覚してもらえればと思う。
- ◆なぜ掘り起こさないんだと言われたが、私たちにもできるところとできないところがあるので、きていただきたいという思いはあるが、そこは市のほうにがんばっていただき、つないでいただければありがたいと強く思う。
- 太宰府市の聴覚部会には3人しかいないが、ほかの地域には身障協の下にろう協というのがあって、すごくいっぱいの方がいる。何かの集まりの時に、太宰府市は何人か聞かれて3人と答えると、すごく驚かれてなぜ掘り起こさないんだと言われたが、私たちにもできるところとできないところがあるので、きていただきたいという思いはあるが、そこは市のほうにがんばっていただき、つないでいただければありがたいと強く思う。
 - どこにどんな精神障がいを持っている人がいるかを市が把握し、通知を出して、家族会なり当事者会なりをつくるべきだと思う。そしたら、みんなほっとすると思う。
 - 精神障がいのある人の家族会は、ぜひ現実化してほしい。しかし、私たちに障がいのある人がどこにいらっしゃるのかを教えられないのはわかるので、講演会など市が企画をして家族が集まれる場を設定してもらえないだろうか。
- ◆ここ数年このメンバーで活動しており、活動できる人が少ないのが現状である。年々年も取るので、いつまで活動ができるか自分自身いつも不安に思いながら活動している。どうすれば増えるだろうか。
- 私たちの会は、ここ数年このメンバーで活動しており、活動できる人が少ないのが現状である。年々年も取るので、いつまで活動ができるか自分自身いつも不安に思いながら活動している。どうすれば増えるだろうか。
 - 会員がなかなか増えない。興味を持ってくれる人は時々いらっしゃるのですが、入会とまではいかない。
 - 会員の高齢化と会員の減少が課題となっている。会員の減少については、障がい者が減少しているのではなく、偏見が表面化していないだけ、かえって根強くなっているのでは、

と思うことがある。

- ◆補助金がないことには運営はしていけないので、市にお願いをして毎年補助金をいただきながら、それと会費とで運営ができておりありがたい。金額を上げてほしいとは言えないが、何か別の方法で助成していただけないか、市役所に相談していきたい。
- 補助金がないことには運営はしていけないので、市にお願いをして毎年補助金をいただきながら、それと会費とで運営ができておりありがたいと思っている。しかし、年々ほかにも活動団体が増えているので、最初は年間 10 万円くらいあったのが、7万円、5万円とダウンしていつている。金額を上げてほしいとは言えないが、何か別の方法で助成していただけないか、市役所に相談させていただきながら、これからもやっていきたいと思っている。
- 私たちの会は福祉団体だが、このボランティア室を週に2回、年間にすると100回くらい使わせていただいている。一般の人が利用する場合は1時間くらいで借りなければいけないが、私たちは例会で2時間使うが減免という形にいただいている。しかし、空調費はかかるので、年間にすると回数も多いため結構な金額になってしまう。何とか半分でもいいので減免してもらえないか交渉してきたが、今までは却下されてきたので、今後もできるところまでは交渉していこうと思っている。
- ◆障がいのある人に地域の行事に参加してもらうのは非常に難しかった。それは、まず親御さんがあまり外に出さないという問題と、もうひとつは障がい者リストを個人情報関係で自治会が持っていないため掘り起こしができないからである。
- 私は以前自治会長をしていたが、障がいのある人に地域の行事に参加してもらうのは非常に難しかった。それは、まず親御さんがあまり外に出さないという問題と、もうひとつは障がい者リストを個人情報関係で自治会が持っていないため掘り起こしができないからである。だから、障がいのある人に出てきてもらうことが難しい。
- うちは大宰府特別支援学校に行っているの、自分が住んでいる地域の情報がほとんど入ってこない。例えば、地域の子ども会でいろいろなイベントをやっているようだが、きょうだい児がいなくてそういう情報も全く入ってこないの、地域の情報が何かしらで入ってくればいいと思う。
- 隣近所で火災があった時、聞こえないと気づかないので、ここには聴覚障がいの人がいるという近所の方の理解があると幸せだと思う。私も何かあった時には近所の方が教えてくださるのだが、これから歳を重ねていくので今後の要望を近所の方に言うておくことは必要だと思う。
- ◆マップをつくるために各自治会の公民館を回ったことがあったのだが、バリアフリーができていない箇所は2~3か所しかなかった。トイレどころか入口さえ入れないほどだった。
- 4年ほど前だが、マップをつくるために各自治会の公民館を回ったことがあったのだが、バリアフリーができていない箇所は2~3か所しかなかった。トイレどころか入口さえ入れないほどだった。高齢者の方にとっても、トイレが和式なので行事に参加できないと言われる方が結構いた。これから、いろいろな面で合理的配慮が必要になってくると思う。災

害が起きた時は避難場所になっているので、問題である。

- 障害者差別解消法ができた年なので、合理的配慮は大事になってくると思う。バリアフリーもかなりよくなってきているので、もう少し建物などの面で努力をしてほしい。中央公民館は特に車いすでは行けないし、市役所のトイレも多目的トイレがないのでせめて1階にだけでもつくる努力をしてほしい。
- ◆二日市までは電光掲示板があるが、五条には電光掲示板がなくいつ電車がくるのかは全部音声で知らせている。大きな駅だけに配慮があって、小さな駅には配慮がないというところに矛盾を感じる。
 - 私は天神から電車を利用してきている。二日市までは電光掲示板があるが、五条には電光掲示板がなくいつ電車がくるのかは全部音声で知らせている。大きな駅だけに配慮があって、小さな駅には配慮がないというところに矛盾を感じる。
 - 役員会で西鉄電車のほうに何回か交渉に行って、電車のなかの電光掲示板が特急にしかないので、これからつくる電車には電光掲示板をつけてほしいということと、何か事故などで変更があった時には改札口のところに書いてほしいということをお話を伝えた。すると快く引き受けていただいた。この頃は、急行電車にも電光掲示板がついたし、先日改札口でお話をした時に、難聴者だと言うとすごく親切にいただいた。困っていたこともアピールすることで少しずつ支援していただけるようになってきている。
- ◆聞こえなくなって外に出るのも、人と交流することも嫌だったので、ひきこもりになっていたが、手話講習を受けてそこで要約筆記を紹介していただいたからは、自分で悩まなくてもサポートしていただいて情報保障されることがわかって世界がすごく広がった。
 - 聞こえなくなって外に出るのも、人と交流することも嫌だったので、ひきこもりになっていたが、手話講習を受けてそこで要約筆記を紹介していただいたからは、自分で悩まなくてもサポートしていただいて情報保障されることがわかって世界がすごく広がった。自分ひとりで何でもしようとして結局できないということが多かったが、サポートしてもらえればできなかったことも一歩ずつ前進できるとわかった。
 - 役員の方々は、ほとんどの方が補聴器をつけていれば大丈夫なのだが、私ともうひとりの方が聞き取れないので、役員会の内容がほとんどわからない状態が続いていた。聞こえないのであれば書くというのが合理的配慮だそうだが、難聴者のなかでも自分が聞こえていれば書く人は少ない。私たちも、聞こえていなくても聞こえているような振りをしてしまい、会議がすすんでしまっていた。それで、非常に困って太宰府市役所に相談して、コミュニケーション支援をお願いして、2か月前から「ちくし」の方を月1回の役員会の時に派遣していただけるようになった。それで、やっと会議の進行状況がはっきりわかるようになった。もうひとりの聞こえなかった方も、それまでは役員会を休むことが多かったが、内容がわかるようになってからはどんどん参加されるようになった。

- ◆私が手話の会に通い始めてから、これまで太宰府市の聴覚障がいの方にはまだ2人しか会ったことがない。ほかにもいらっしゃるはずだが、こういう場があることを知らないのか、知っているけどきていないのかが気になる。
- 私が手話の会に通い始めてから、これまで太宰府市の聴覚障がいの方にはまだ2人しか会ったことがない。ほかにもいらっしゃるはずだが、こういう場があることを知らないのか、知っているけどきていないのかが気になる。
- こういう場があることを知らない人がいっぱいいるのではと思うので、市でも呼びかけてこういう場に参加することで情報を得ることができるということを、強く伝えていってほしい。会員にならなくても、遊びにきてもらうだけでもいいので紹介をしていただけたら、もっとネットワークが広がっていくと思う。ただお手紙を出しただけでは、行ってみようという気にはならないと思う。
- 市に対する一番の要望は、プライバシーの侵害とか個人情報などややこしい問題があるために、私たちは市のなかにどれくらいの聴覚障がいの方がいるとか、本当は利用したいという方や困っているという方がわからないので、そういう方々には福祉課がこのような会があるので利用してはどうかとつないでほしいということである。障害者手帳を持ってある方が、福祉課に行って尋ねれば教えていただけると思うが、そういう事業があることを全く知らずにいる方がたくさんいるのではと思う。
- 広報で知らせているなど言われるが、目が不自由な方はわからないし、声のボランティアさんがテープを回しているとも言われるが、そういうことを知らない方にはテープも回って行かない。福祉というのは、市の皆さんの幸せのためのものなので、一歩掘り下げて行き渡ればと思う。
- 毎回決まった方しかこられないが、皆さんに同じく知る権利があるのもったいないと思うし、悩みがたまっているのではと心配している。
- 聞こえに不自由があって、ひきこもっている方がたくさんいると思うが、情報が入ってこないのが残念である。
- 同じマンションの子で、アスペルガーだけど地域の学校の普通学級に行っている子がいるのだが、情報が何も入ってこないそうで、このインクルーシブの会があることも知らなかったそうだ。私も筑紫野市経由でこの会のことを知ったのだが、助けてほしいときにうまくつながれるように、太宰府市から情報がわかりやすく伝わっていけばなと思う。
- ◆要約筆記を知らない方が多いのだと思う。こういうものがあるとお話ししても、利用されない方もいる。敷居が高いというのはあると思う。初めの一歩がなかなか難しいのだと思う。
- 要約筆記を知らない方が多いのだと思う。こういうものがあるとお話ししても、利用されない方もいる。敷居が高いというのはあると思う。初めの一歩のポンがなかなか難しいのだと思う。私たちは、要約筆記の基本的なところに守秘義務があって、その点は勉強しているのですが大丈夫なのだが、利用される方はそのあたりを知らないのいろいろな心配や不安があるかもしれない。
- 聞こえないことを知られたくない方、補聴器をつけていたら用が足せるという方、コミュ

ニケーション支援がなくても自分は大丈夫だという考えの方、申し込みをするのが億劫だという方、個人情報を知られたくないという方、支援にきていただいても知らない人だと不安という方、いろいろな理由で利用する人が少ないのだと思う。

- もっと利用していただけるといいのだが、家族で何とかしようとされたり、諦めてしまっていたり、要約筆記という言葉自体を知らなかったりと、限られた方の利用になっている。
- ◆独身の時は自分さえわかればいいので携帯で解決できるが、子どもができて子どもが病気になった時、子どものことをすごく知りたいのにお医者さんの言っていることがわからない、コミュニケーションが取れないとなって通訳の必要性を感じたというのはよく聞く。
- 独身の時は自分さえわかればいいので携帯で解決できるが、子どもができて子どもが病気になった時、子どものことをすごく知りたいのにお医者さんの言っていることがわからない、コミュニケーションが取れないとなって通訳の必要性を感じたというのはよく聞く。
- 若い方は、結婚するまでは通訳なんていらないう方が実際多いが、結婚して子育てをするなかで通訳が必要だということに直面するようである。手話通訳が必要だと感じる登竜門は、結婚式の打合せのようであるが、やはり必要性を体験しないとわからないと思う。また、若い人は自分の情報は iPhone や Facebook、Twitter など得られるというのが今と昔の違いかなと思う。
- 私たちも青年部のなかで手話通訳の必要性について講演会をしたことがあったが、健常者だけでなく、聞こえない人の参加が少なかったのがすごく残念だった。しかし、そのように携帯などで情報を得られるような方は、聞こえに不自由があっても家庭を持っていたり、会社に勤めていたり問題がない方が多いが、重複障がい者など若い方でも文章だけでは理解しにくい方や、メールを送っても込み入った話が通じないという方もいる。
- ◆中途失聴者が一番困ることは、まず病院だと思う。先生の話聞くにも、看護師さんと話すにも、受付で名前を呼ばれるのも本当にわからないので困っていた。
- 中途失聴者が一番困ることは、まず病院だと思う。先生の話聞くにも、看護師さんと話すにも、受付で名前を呼ばれるのも本当にわからないので困っていた。九大の受付では、自分の順番になったら振動して教えてくれるものを持たせてくれるのでわかるが、個人病院ではマイクで呼ばれるので、間違えて診察室に入ったことが何回もある。コミュニケーション支援で要約筆記があるとわかってからは、病院に行く時は市に申し込んで支援してもらっている。
- 私が日常生活で困っていることとして感じているのは、例えば病院では先生の説明もそうだが、まずは名前を呼ばれてもわからないということがあり、ほかにもそういう場所がたくさんある。
- 胃が痛くなった時、1か月間ひとりでしたが、やはり気にかかったので市役所に通訳をお願いして病院に行ったのだが、もっと早く通訳をお願いして行けばよかったと強く思った。入院した時も、お世話をしてもらう分には困らないが、お医者さんの説明を理解するには細かい話になるので、通訳がないと困った。

- ◆障がいがある子どものモデルは、かなり限られたものになる。そういう人を見つけ出せればいいが、あまりそういう機会がないことを考えると、専門的な相談場所だけでなく、ピアカウンセリング的な話のほうも大事かもしれない。
- 専門的な相談も大事だと思うが、自分が将来どうなるかというモデルになる人がいると、不安がなくなると思う。しかし、障がいのない人たちにとってのモデルは、世の中にたくさんあふれているが、障がいがある子どものモデルは、かなり限られたものになる。そういう人を見つけ出せればいいが、あまりそういう機会がないことを考えると、専門的な相談場所だけでなく、ピアカウンセリング的な話のほうも大事かもしれない。
- ピアカウンセリングということになると、行政の相談支援よりも、エ・コラボさんのような地域の方々がんばってもらえるのがいいのではと思ったが、実際、知的障がいのあるお子さんを持つ親御さんの会というのは、ほかにも太宰府市内にたくさんあるのだろうか。
- インクルさんからも、具体的な質問などされるので、話をしたいという気持ちはみんな持っているなということを感じている。そういうきっかけづくりの企画が必要だと思うが、そういう意味でエ・コラボカフェをやっており、月に1回市役所のロビーでカフェをやっているのでもそこにおいでと話している。しかし、そもそも接点がない。
- 道などでたまたま発達障がいのあるお子さんのお母さんに会って話を聞くと、たくさん話をしたいようで長い時間語られる。それでも、お子さんが横にいて長話はできないが、これだけ話をされるということは、相談できる場所や話ができる場所がほしいんだなと感じる。だから、いくら発達障がいに対する理解がすすんだといっても、現役の方の学校における子どもや親の立場はあまり変わらないのかなと感じている。
- どうしようもない場面というのは絶対にあるので、心を強く持って、我慢をさせないといけないときには我慢をさせて、障がいがあるから何でも許してもらえと思って育てるのは違うということも理解し、いいことも悪いことも自分たちなりに整理をしながら、いいほうにものごとを考えられるようになっていけばいいと思う。若いお母さんたちは、まだ何もかもがごちゃごちゃで、苦しんでいると思う。
- ◆高校2年3年生できて、就職が決まると、こなくなる人が何人もいる。今は、自分たち家族だけでもヘルパーを使ったりして、何となく困らないで生活ができるので、それでいいと思われる方はつながらない。
- あるまちの手をつなぐ育成会の会長さんが言っていたが、今の若いお母さんはそれなりに自分たちで楽しくやっているが、卒業するときになってはたと気づき、これからどうしようとそのときになってようやく危機感を感じるようだ。確かに、その時期だけ人がくる。高校2年3年生できて、就職が決まると、こなくなる人が何人もいる。今は、自分たち家族だけでもヘルパーを使ったりして、何となく困らないで生活ができるので、それでいいと思われる方はつながらない。
- 情報はインターネットで取れるからではないか。若い人たちはあまりそういうものを必要とされていないのではないだろうか。同じ経験を持つ仲間ではなく、学校で困ったことがあったら学校の先生に直接話をすればいいと思っているのではないだろうか。
- 実際、泣きながら子どもさんの話をされたりする姿を見ているので、思っているほど自由

には発言できていないのではと思うが、今の若いお母さんはいっしょにやろうと誘っても、絶対にこないと思う。面倒くさいのだと思う。こちらがお膳立てをして、何もしなくていい状態で、やっとくる。私たちの子どもが小中学校に行っていた時代は、自分の子どもを見ながらクリスマス会をしたり、川遊びをしたり、いろいろなことを企画していた。

- ◆余暇活動についてだが、障がいのある人は家にこもってしまうことが多いと思うので、楽しく地域で生活していけるようなものを、市のほうも考えていただきたい。
- 余暇活動についてだが、障がいのある人は家にこもってしまうことが多いと思うので、楽しく地域で生活していけるようなものを、市のほうも考えていただきたい。
- 就労する以外の土日など、大人になってからも親がついていないとどこにも遊びに行けない確率が高いと思うので、親から離れて余暇活動ができるような場があればと思う。
- 本当は一般のサークルに加わることが一番の目標なのだが、障がいの程度ではなかなか難しい人もいるので、遊ぶ場でのサポートもあればと思う。パワフルで体力を持て余しているので、体を動かせる習い事に連れて行ったりするが、危ないからと入れなかったり、人の少ない時間という条件がついたりする。
- 3障がいをいっしょにすることで、いい面もたくさんあるが、どうしても精神の人は状態が固定せず不安定なため、扱いに困ると言われたことがあるので、精神の人も気軽に参加できる施設やサークル活動の場所があればいいと思う。
- ◆市のほうが窓口になって、みんなでスポーツをしましょうというコースをひとつつくっていただければ、そこからまた何人かで得意なことのサークルなどつくるきっかけになるかもしれない。
- 市のほうが窓口になって、みんなでスポーツをしましょうというコースをひとつつくっていただければ、そこからまた何人かで得意なことのサークルなどつくるきっかけになるかもしれない。
- 春日市のクローバープラザでは、障がいのある方でも気軽に参加できるバスケットや水泳などがある。太宰府市にはそういうものがないので、体育館ができたらぜひ障がいのある人でも参加できるものがほしい。小学生から大人まで参加できれば、子どもの親は悩みを話す場にもなって、大人も子どもも楽しめると思う。
- ◆夏場は子どもたちが多いため、更衣室がものすごく混雑するのだが、いっしょにくるのはだいたいお母さんなので、大きい男の子は女子更衣室にも入れないし、お母さんが男子更衣室に入ることもできない。
- 夏場は子どもたちが多いため、更衣室がものすごく混雑するのだが、いっしょにくるのはだいたいお母さんなので、大きい男の子は女子更衣室にも入れないし、お母さんが男子更衣室に入ることもできない。
- 親子更衣室はあるが、そういう名称だと使いづらいので、困っている人が使う更衣室みたいな意味あいを書き変えてもらえれば使いやすくなると思う。
- 市民プールの更衣室が使いにくい。夏期はごった返しており、トラブルが起きたことがある。親子更衣室を障がい者も使い易い表記にする。

- ◆親である私たちがつくるのは働く場ではなく、私たちの子どもがこの先地域で誰かに頼って生きていかなければいけないときに、心配してくれる人がいて、困ったことをつないでくれる場所ではないかと今感じている。
- 働く場をつくろうとこの会を始めたときは、まだ自立支援法さえなかったが、今は A 型 B 型、特例などさまざまな働き方が法律でできているので、親である私たちがつくるのは働く場ではなく、私たちの子どもがこの先地域で誰かに頼って生きていかなければいけないときに、心配してくれる人がいて、困ったことをつないでくれる場所ではないかと今感じている。
- 10 年前に働く場をつくろうと始めて今までやってきたが、今 10 年経って、いろいろな人とかかわってきたなかで私たちがやれそうなことは、結局社会参加のきっかけとなる場というくらいゆるいものだと思う。そして、そこからまた一般就労や A 型 B 型にすすんでもらえるような場ができればいいなと思っている。そういう居場所や、社会参加というのは、今求められている地域のなかの資源だと思う。
- 今はいろいろなことを試している段階で、市民ギャラリーで月 1 カフェをやらせていただくときも、高齢者支援課の方と組んで認知症についてお話をしてもらったり、市役所前の通路のところでカフェをして、障がい者施設の B 型の方に入ってもらってお話してもらったり、いろいろ試しながらどんなことがみんなにとって楽しいのか、どんなことをすればみんながきてくれるのか、そこでどんなことがつながるのかを市役所の方といっしょに検証している。
- ◆未就園児、就学前、小学校と子どもの年齢が上がっていくたびに、市役所での窓口が変わって、担当課が変わると立ち位置や捉え方も変わっていくので、ワンストップの窓口がほしいというのが一番の要望である。
- 未就園児、就学前、小学校と子どもの年齢が上がっていくたびに、市役所での窓口が変わって、担当課が変わると立ち位置や捉え方も変わっていくので、ワンストップの窓口がほしいというのが一番の要望である。
- できないなかでも、何とか順序立てていくという力や社会に対応できる力というのは、小さいときからつけていかなければと思う。しかし、それを若いお母さんたちに私たちが直接伝えると、あなたたちの話はもういいと反発したくなる感情もあると思うので、そういう意味で障害者就業・生活支援センターやきらきらルームのように客観的に知識のある第三者が話してくださる相談場所があるということは、何よりだと思う。
- 家族で孤立している人たちのネットワークづくりなどができるようになればいいと思う。それを実現するためには行政の支援が必要になる。
- ◆障がいのある子どもと、そうでない子どもをわける保育や教育が、太宰府市にはまだ残っていて、それが将来にわたってすべてに影響していくと思う。幼稚園には障がいのある子は入れてもらえず、小学校を選ぶときもいろいろな意見を言われて、ずっと特別感がある。
- 障がいのある子どもと、そうでない子どもをわける保育や教育が、太宰府市にはまだ残っていて、それが将来にわたってすべてに影響していくと思う。幼稚園には障がいのある子

は入れてもらえず、小学校を選ぶときもいろいろな意見を言われて、ずっと特別感がある。学校で人権や道徳を教えているが、障がいのある子がわけられていっしょに生活していない時点で、大人の勝手な価値観を教えていることにはならないだろうか。結局、子どもたちは違う学び方をしてしまっていると思う。障がいのある子どもたちといっしょに生活することは、道徳の授業を受けるよりも人権を自然に学べると思うし、それが当たり前のことだと思う。うちの子どもは車いすに乗っているが、遠足のときなど安全のためと先生しか押しはいけないと言われている。しかし、授業では車いすを押す授業をしており、私はそこにとっても違和感を持っている。いくら授業でやってもそれを普通の生活でできなければ、本当に理解することはすごく難しいと思う。

- 以前は交流学級が主だったのが、今は交流学級ときっちり分けられて、ランドセルを置く場所も支援学級になり、下駄箱も交流学級の子とは分けられたり、子どもたちは戸惑っていた。

◆受け入れる交流学級の先生がよければ、また小さいときから子ども同士交流ができていれば、担任の先生が変わっても、周りの子どもがきちんとやってくれるようになる。そういう雰囲気为学校全体を改革して欲しい。

- 受け入れる交流学級の先生がよければ、また小さいときから子ども同士交流ができていれば、担任の先生が変わっても、周りの子どもがきちんとやってくれるようになる。そういう雰囲気为学校全体を改革して欲しい。
- 当たりの先生というのは、子どもたちの興味をうまく引き出して学習に生かしてくれて、そのいいところを認めてくれて、交流学級を主と考えてくれているので、交流学級のなかでもそれを生かして発表する場をつくってくださる。交流学級の先生と支援学級の先生がどちらも、交流学級がメインでお客さんではないという考えだと、親もそれを望んで通わせているし、子どもたちにとってはとてもいい環境になる。
- うちの子どもは、保育所に通っていたときはまだ小さくて何もできなかったもので、周りの子とその様子を見て「赤ちゃんみたい」と言ったことがあった。そのときに先生が「赤ちゃんじゃないんだよ。同級生なんだよ。だから、できないことには手を差し伸べるけど、自分でできることはやらせなさい」と教えていた。そういう先生がいるだけで、周りの子どもたちは全く違ってくると思う。そういうなかで育った子どもたちは、学年が変わっても「自分でできるやろ」と言うこともできるし、本当に助けてほしいときにはサッと手伝ってくれる。そういう先生を増やしてほしいし、そういう教育をしてほしい。
- はずれの先生にあたったときは、子どもがどんどん自信をなくしていった。支援学級の先生が交流学級の子どもたちや先生に、「この子がいてごめんなさい」と言ってしまうような感じだったので、そのときは本当につらかった。頻繁に電話がかかってくるので「家でしっかり言って聞かせてください」と言われて、「この子はいたらいけないのか」と思ってしまった。校外学習に支援学級で行くとき、担任の先生が「〇〇さんは今から遊びに行ってください」と交流学級で言ったために、子どもたちから「いいな、〇〇ちゃんは遊びに行ってる」と言われてしまった。給食の準備も、初めからできないだろうからとほかの子にエプロンをさせて、洗濯だけ持ち帰らせていたので親がずっと気づかなかったそうだ。そういう先

生もいる。

- 支援学級の先生は固定ではなく、翌年普通学級の担任になることもあるし、産休で戻ってきた先生や今から産休に入るような先生が支援学級に充てられたり、普通学級を持ってない先生を回されたり、精神を病んで休んでいた先生が帰ってきて支援学級に入ってまたすぐいなくなったり、そのような状況である。
 - 一番困るのは先生たちの引き継ぎがなされていないことである。うちの学校は、毎年支援学級の先生が替わるのだが、どこまで学習しているかを把握されておらず、引き継ぎノートはあるようだが、支援学級を持って初めは先生もパニックでノートを見る余裕もないようだ。支援学級に5人いればそれぞれ症状も違うし、勉強のすすみ具合も違うのだが、5人いっしょに1+1などから始めて調整していくので、いつも1学期は復習の域を越えて振り戻され、勉強になっていない。
 - 毎年、個別の教育支援計画はつくるように教育委員会から指導されているが、それを活用するかどうかは先生による。支援計画は義務なのでつくってくれるが、最後の報告はなく作りっぱなしである。支援計画書はつくっただけでは何も意味がない。結果どうなったかをおうちの方もいっしょにみんなで共有して、成長を喜べるようにしたいものだ。
 - 一番の問題は、教師の数が足りていないことだと思う。普通学級の先生も足りていない現状があり、支援員の先生が普通学級の手にも負えない子の支援に回ってしまうこともある。そうすると支援学級が手薄になるので交流学級に行けなくなり、支援学級で過ごす時間が多くなる。
 - 学校関係者に対して障がいに対する啓もう活動をしてほしい。
- ◆年に1回居住地交流があるが、そこでの配慮がなく、ちょっとハードルが高かった。居住地交流はあきらめようかなという気持ちになっている。支援学級の先生が窓口になったほうが、配慮ができると思う。
- 年に1回居住地交流がある。昨年1年生のときに初めて参加したのだが、おそらく学校としては参加しやすいようにと遠足のときにどうぞと言われたのだと思うが、実際行くと車も入れない場所で、一番近くの駐車場からでも30分くらい歩かなければいけなかったのだ、ちょっとハードルが高かった。学校の先生との情報のやりとりがうまくいっていなかったのだと思うが、居住地交流はあきらめようかなという気持ちになっている。
 - 居住地交流では普通学級に入るのだが、3回とも同じクラスに入るのではやはり子どもたちが覚えているし、いろいろな話が出てきているので大事だと思う。だから、遠足に行く前にどこから参加するかとか、どれくらい歩けるかなど学校から話がなかったのは本当に残念だと思う。遠足の日、普通学級の子どもたちも自分が楽しむことでいっぱいだと思うので、音楽や図工の授業をいっしょに体験したりするほうがいいのではと思う。3回目に遠足に行くのならいいが、まずは知ってもらわないといけないと思う。いい交流ができると思うので、来年はあきらめないでほしい。支援学級の先生が窓口になったほうが、配慮ができると思う。

- ◆最初に困ったのは、障がいがわかってから療育に行くところがなかったということだ。
 - 最初に困ったのは、障がいがわかってから療育に行くところがなかったということだ。こくま学園しか空いてなかったのだが、通い始めてすぐに幼稚園か保育所に行きなさいと言われて探したが、結局受け入れてくれるところがなかった。
 - 途中から頼み込んで幼稚園には入れたが、療育の場所がないということと、幼稚園に入れないということが最初に困ったことだ。

- ◆きらきらルームに通っていたお子さんも就学前で切られてしまって、行き場がなくなってしまいどうしたらいいか悩んでいるお母さんが結構いる。せめて、1年生の間だけでも就学してからの場を考えてほしいと思う。
 - きらきらルームに通っていたお子さんも就学前で切られてしまって、行き場がなくなってしまいどうしたらいいか悩んでいるお母さんが結構いる。せめて、1年生の間だけでも就学してからの場を考えてほしいと思う。
 - 療育手帳を持っている子へは支援の形を教えてもらえる機会があったり、療育の場があったりする。しかしグレーゾーンの子は、就学前に障がいが見つかって療育を受けることが難しく、就学後にわかった子は療育の場を自分で探さないといけないし、就学前に入っていないと療育は受けられないことが多い。グレーゾーンの子も、障がいにかかわるすべての子どもということで教育と福祉を受けさせてもらえるのであれば、もう少し支援を考えていただきたいと思う。
 - うちはもともと鹿児島に住んでいて、そこで通っていた療育も就学前までのものだったが、そこはアフターフォローという形でソーシャルスキルトレーニングを週に1回、2～3年生くらいまでしてくれていた。しかし、太宰府市は療育先自体が少ないと思うので増やしたほうがいいと思う。
 - 結局、就学前の発達支援のサービスと、就学後の支援学級であったり放課後等デイサービスであったりというのは、全く畑が違うのでその総合的な連携がうまくできていないと思う。

- ◆知的障がいのない発達障がいのお子さんは、小学校に上がってから気づかれる方が多いので、相談先がなくて悩んでいたりと、普通学級のお子さんは通級もいっぱい入れなかったり、ソーシャルスキルを学ぶ場がないのではと思う。
 - 知的障がいのない発達障がいのお子さんは、小学校に上がってから気づかれる方が多いので、相談先がなくて悩んでいたりと、普通学級のお子さんは通級もいっぱい入れなかったり、ソーシャルスキルを学ぶ場がないのではと思う。
 - 通級は太宰府市に2か所しかないので、その学校まで連れていけないといけない。親が働いているとその教育を受けられないし、移動のために前の授業とあとの授業の前後2時間授業が受けられないことになる。少しずつでいいので、もっと通級の数も増やして欲しい。通級のある学校を固定しないで、曜日ごとにローテーションにするなどの方法も考えていいのではと思う。
 - 障がい児を受け入れてくれる保育所、幼稚園が少ない。小中学校においても、通級や支援

級の設定が少なかったり、特別な支援のニーズがある児童、生徒であっても、他の児童、生徒よりも程度が軽い場合は、外されたりする。

- ◆きょうだい児支援。お互い同じ境遇だったのでひとりじゃないということですのでごく仲よくなれた。うちの弟はこんなことするけん困ったとか、目立つことするけんすかんとか、そういうことが子ども同士で言える場があるというのはひとつ支援になると思う。
- うちのお兄ちゃんは中学校でテニス部に入ったのだが、テニス部のなかにたまたま同じようにきょうだいに障がいのある子がいる同級生の女の子がいた。もし、自分ひとりで障がいのある弟が部活に入ってきたら結構白い目で見られたかもしれないが、お互い同じ境遇だったのでひとりじゃないということですのでごく仲よくなれた。うちの弟はこんなことするけん困ったとか、目立つことするけんすかんとか、そういうことが子ども同士で言える場があるというのはひとつ支援になると思う。
- 前に、障がいのある子のきょうだい児だけを集めて親も参加しない、それにきょうだい児で大人になった人がサポーターとして入って、思う存分ストレス発散させてあげるというキャンプの話を聞いたことがある。それはすごくいいと思った。自分たちを大事にもらえて、発散ができて、そのなかで自然に友だちになっていけば、大きくなったときにいっしょにお酒を飲める関係になっていけると思う。
- 昔、私はスペシャルオリンピックスに一時期所属していたことがあった。今まで障がいとは関係ない生活をしてこられた健常者の方々もボランティアとして参加されていたが、そのボランティアに交じって、きょうだい児もボランティアとして入っていた。すると、そのきょうだい児がかつてこんなに居心地がよかったことはないと言っていた。それは、サポートをしてきているみんなは自分の弟のことを知っていて、そんななかでボランティアの方々に帰りにお茶飲んで帰ろうと言ってもらえる心地よさがあったからだそうだ。それまでは弟を見られたくないので自分の友だちを家に連れてきたことがなかったそうだが、その人たちは家にも遊びにきてくれて、弟をからかいながらいっしょに遊んでくれ、お父さんもそういうことをしたことがなかったので、その人たちと酒を飲むことがすごくうれしかったようで、しょっちゅう家に友だちがくるようになったそうだ。そういう関係を見て、うちの子もスペシャルオリンピックスに入れて、そういう友だちをつくってあげたいと思ったのだが、うちの子はすごく運動音痴だったので行きたくないと言われた。そういう自然な流れでいける環境があったらありがたかったなと思う。
- きょうだい児の支援というのは何か特別なことを考えないといけないのかなと思っていたが、さっき、親もピアカウンセリング的に酸いも甘いもいろいろなことを話せる場があればいいと言われたのと同じで、きょうだい児にとっても思いの丈を打ち明けられる、同じような境遇の人もしくはすごく理解のある人たちとのつながりがあることが一番いいのかもしれないと話聞いて思った。
- お兄ちゃんにはお兄ちゃんの人生があるので、弟のことで迷惑をかけたらいけないと思っている。だから、親亡きあとに何か弟のことで困ったことがあったら、お兄ちゃんの家族に負担がないように、そこは社会的なサポートがあるからここに相談してねと伝えられるものがあると、親は最終的に安心ができる。